
いただきます。

広江 七横

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
いただきます。

【Nコード】
N0027J

【作者名】
広江 七横

【あらすじ】
観光地で深夜にひっそりと営業する食堂。そこで店主が客を相手に怪談が始めるが……。

へい、いらつしゃい。その空いてる席にどうぞ。何にしますか？
チャーハンですね、少々お待ち下さい。

ところでお客さん初めての店でチャーハン頼むなんて通だね、チャーハンてのは作るのは簡単なんだけど奥が深くてね、店によって味が全然違うんだよ。チャーハン一杯でその店のレベルつてのが分かるってもんでね。うちのチャーハンはどうかって？ こんな蘊蓄うんちく語るんだから美味いに決まっていますよ。

へい、お待ち。冷めないうちに食って下さい。食いもんは鮮度が命ってね。

どうです？ 美味しいでしょ。ちなみにお客さん、あんた観光でこの街に来たのかい？ いや、この辺りじゃ見かけない顔だと思っ
ね。

そうかやつぱり旅行者か、そりや良いや。旅行は良いよね、心の洗濯つてやつでしょ？ 俺はこんな店やってるから中々、旅行なんて行けないんで羨ましいよ。

ん？ なんで深夜に店開けてるのかって？ この街は観光地だから、こんな時間に店やってんのうちぐらいだし、確かに珍しいよね、よく聞かれるよ。

いやね、理由はすごく単純なんですよ。昔、自分が旅行へ行った時に夜中に腹減っちゃってね、俺こう見えても大食漢なんですよ。見えないって？ まあ人は見かけによらないってね。で、観光地って都会みたいに深夜営業の店ってないじゃない。それで思ったんだよね、こういう土地で夜中に店やったらどうかなって。人がやらない事をやるつてのは商売の鉄則だからね。

まあ、見てのとおり全然流行ってないんだけど。でも、お客さん

みたいに来てくれる人がいるから、辞められないよね。

なんかお客さんが美味そうにチャーハンを口にほうばってるから、俺も腹減ってきちゃったよ。飯にしようかな？

え？ エアコンを付けてくれたって。ああ、すいません暑いよね。今エアコン壊れてるんですよ、申し訳ない。

そうだ、代わりといっちゃ何ですが、俺の怪談を聞いてもらえませんか？ 少しは涼しくなれるかもしれませんよ。

いや実はね、今度、町内の寄合で納涼会やるうって話になってさ、そこで怪談をそれぞれ持ち寄ろうって事になってるんですよ。でも、俺はその類たぐいの話ってが、どうも苦手だね。よかったらお客さん練習に付き合ってくれないかな？ なんて思ってた。聞いてくれる、そうですか、ありがとうございます。

じゃ早速、始めますね。まず最初にこれから話す事は、全て実話ですからね。リアリティがあった方が怪談って怖いでしょ？ でも、そこに俺が一つだけ嘘を混ぜます。ほら、話が詰まらなくても、何が嘘なんだろうって考えながら聞けば、最後まで聞いてもらえそうじゃない、隠し味ってやつですよ。で最後に嘘は何か？ って考えたらう寸法ですよ。

それじゃお客さん、心の準備はいいですかい？ 始めますよ。

お客さん、神隠しって信じます？ そう、ある日突然人が居なくなっちゃうってあれですよ、まあ昔なんかは山や森で事故や事件に遭ったり、夜逃げとかしても、天狗や鬼に会って神隠しにあっちゃった、なんて言われたみたいですけどね。

でもね、神隠しって本当にあるんですよ。

俺が昔住んでた村でね、子供が山へ遊びに行ったまま帰ってこないって事がありましたね。小さな村だから大騒ぎになっちゃってさ、村の男達が総出で夜中の山を探したんですよ、ありや凄い人数でし

たね。

しかも、みんな殺気立ってるっていうか、ありやまるで山狩りでしたよ。まあそんな感じになっちゃう理由は分かるんですがね。

その山の名前はね、『いらとう山』って言うんですよ、聞いた事ない？ そりやそうでしょうね、田舎の小さな山ですから。

でね、その『いらとう』って字なんですがね、こう書くんですよ。入裸頭。

もう解っちゃったかな？ 解らないって？ お客さんは勘が悪いなー、これみて変な名前だと思いませんか？ 思ったでしょ。この山、大昔は『入らず山』って呼ばれてたんですよ。

『入らず』が『入裸頭』になって『いらとう』って呼ばれるようになったんですよ。

お客さん、笑ってるけど地名なんて結構こんなもんが多いんですよ、人間なんていい加減な生き物ですからね。

でね、問題は、なんで入らず山なんて名前が付いたかなんですよ。それはね、大昔にそこには鬼が住んでて、山を通る人間を食べちゃうなんて噂があったんですよ。しかもその鬼の性格が悪くてさ、人間の恐怖で引きずった顔が好物なもんだから、生きたまま体を少しずつ裂いてって、骨まで食べちゃうような、とんでもない奴だったんです。

だから、その山に入った人間は神隠しに遭ってしまふ。『入らず山』ようは、人間は入っちゃいけねえ山って訳です。

で、話を戻しますけど、そんな山で子供が居なくなつたとなりや、いくら昔話とはいえ、地元の人間は気が気じゃねえって訳ですよ。

まあ結局、いくら村のやつらが血眼になって探しても、子供がその晩に見つかる事はなかったんですよ。

お客さん、顔が蒼いけど大丈夫かい？ 飯食ってる人に聞かせる話じゃなかったかな、悪い事したね。

俺、ちよっと悪乗りしちゃったよ、話はこれからって感じだけど、

俺は鬼じゃないから話止めてもいいんだよ。

せつかくだから続けてくれって？ そう言ってももらえるなら続けますけど……。

でね、次の日になって搜索が再開されたんですが、村の奴らが口々に変な事言うんですよ。子供の声が聞こえたって。

いや、それだけ聞いたら見つかったんだろ、早く助けるよって話なんですが、そうじゃないんです。

声を聞いた場所がバラバラでね、山頂付近で聞いたって奴もいれば、いや、麓の方で聞いたぞって奴もいてさ。もちろん、その付近はかなり探したみたいなんですが、人っ子一人見当たらなかったんですよね。

それと、これが一番気味悪いんですが、その子供の声の内容がね「イタイ、イタイ。ボクの足はどこ？」とか「イタイ、イタイ。ボクの腕はどこ？」とかだったらしいんですよ。

俺はね、生まれてこのかた、お化けだ、霊だったのは一回も見た事が無かったから空耳だろ、ぐらいにしか思わなかったんですが、山の中で遂に聞いちゃったですよ。

「イタイ、イタイ。ボクの頭を返せ」

って子供の声をね。

さすがの俺も一目散に山降りしましたよ。

結局、子供は見つからない、村では神隠しだって事になっちゃったって話です。

どうもご静聴ありがとうございました。どうです、少しは涼しくなりましたか？

えっ？ 落ちは無いのかって？ いや、素人の話に落ちを求められてもねー。まあ、本番までにはもつと練習しますよ、すいませんね。

これ実話かって？ 当時の新聞にも載った事件ですから本当です

よ。

じゃ子供の声が嘘だろって？ いやいや、本当ですよ。俺は間違
いなく聞いたんですよ、幽霊の声を……。

それじゃ何が嘘だったんだって？ 解らないってかなー。やっぱ
りお客さんは勘が悪いや。

いや、馬鹿になんかしてませんって、そんなに怒らないで下さい
よ。

やべえ、やべえ、なんか昔話してたら、ヨダレが垂れてきました
よ、そろそろ飯にしますね。

——それじゃ、いただきます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0027j/>

いただきます。

2010年10月8日15時25分発行